令和５年６月２３日

学校法人三幸学園
名古屋スイーツ＆カフェ専門学校
校長　岩田　博文　殿

学校関係者評価委員会
委員長　堀　潔

学校関係者評価委員会実施報告

令和４年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員

①　堀　潔　　（株式会社ホーリープランニング　代表取締役）
②　西村　美優　（株式会社 DD ホールディングス）
③　佐々木　護　（飛鳥未来高等学校 名古屋キャンパス　キャンパス長代理）

２　学校関係者評価委員会の開催状況
令和５年６月２３日（会場　名古屋スイーツ＆カフェ専門学校　７０４教室）

３　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和4年度　学校法人　三幸学園　名古屋スイーツ＆カフェ専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　藤田　高広
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　堀　潔

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。
また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材」を育成する（全ては、お客様の笑顔とありがとうのために）人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

7年目を迎え、今までと同様に教育理念である「技能と心の調和」に基づき、社会の動向、業界の現状を踏まえ、この6年間で培った基盤を軸に、より良い学習内容、充実した学習環境、安定した就職サポートを提供できるよう、以下の点を重視し教育を進めていく。

①　前年度重点施策振り返り

・教務活動と広報活動を連動させ、退学率の低減を進めていく。
→時期やタイミングに合わせた取り組みを実施し、結果として 4％台の数値となる。

・教育の質の向上
→退学率に課題が見えるので、対策を強化する必要がある。3％台で維持を目指したい。

・売り手市場における就職対策を図る
→95.9%の就職決定率となり昨年より向上しているが、在学時の内定辞退が複数見られたので、
　就職内定後の社会人教育の強化が必要。

・卒業生の就業状況把握と卒業生支援
→企業訪問により卒業生の就業状況の把握と企業との関係性構築や向上を目指す。
　卒業生 LINE を活用し、中途採用募集の案内等も積極的に提示していく。

・AED 等安全管理と、安心、安全につながる環境設備
→HR 等で定期的に安全管理と災害時の避難経路等の伝達を行っている。
→昨年に引き続き AED 使用方法について実施できていないため、取り組みを検討。

② 　学校関係者評価委員会コメント

全体を通して、年々改善が進んでいる実感があるが、時代の変化と共により良い軌道修正を続けていく必要がある。（磯田さん）

3.評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・例年、創意工夫は行っている。今後も継続的に生徒、保護者に向けて、理念、目標の浸透を高める施策を進めたい。

・社会情勢は変化し続けるので、業界ニーズに着目し続け、情報収集に努める。

② 今後の改善方策

・校内掲示での更なる発信は勿論のこと、引き続き Sanko Gate でも、都度、教育理念他の周知に活用していきたい。併せて教職員にも理念、特色を常に把握、理解させ、生徒へ質の高い学びを提供出来るよう繋げたい。また、保護者には普段の発信文書、各行事はもとより、2 年生の実習科目である「学内店舗実習」を上手く活用し、積極的に当校の特色を理解して頂けるよう、発信を進めていく。

・学校運営や教育活動の中でも常に教育理念や目標に立ち返り、効果的に教育効果を発揮できるよう努めていく。

・引き続き、業界のニーズに合った教育を行うための教員研修会を実施。

③ 特記事項

・以前より教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園としてのビジョン、ミッションを設定し、教職員へ浸透を図っている。業界ニーズをより深く理解し、日々の教育へ活かしていくことを目的に、関連企業、地域団体と産官学連携・地域連携し、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。

・理念の浸透として、「体験入学」時から教育理念を伝える機会や資料を設けており、また、入学生保護者には「新入生保護者説明会」、入学者には「スタートアッププログラム」等を利用して理念の浸透を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

高校分野において、3 年生は三者面談を実施。やはり顔をみてコミュニケーションをとることは信頼度や関係性構築に効果的だと感じる。コロナ禍の影響により、オンライン面談も常用化されてきたこともあるため、保護者の希望に合わせてオンラインでの実施も兼用している。結果として教員との時間も合わせやすくなり効率よく効果的な対応ができている。（佐々木委員）

学内店舗実習では保護者の方の来校も多く、普段は感じられない生徒の学校での姿を感じてもらう機会になっている。（恒川さん）

理念の認識という点では、自身は現在所属する企業において、就職活動の時点で企業理念を調べ認識した上で入社している。入社後研修の中で毎度徹底して伝達されていたので理解する環境は与えられていた。そのように一度だけではなく様々な角度で複数回にわたり伝えていくことが大切ではないか（西村委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・教職員・連携企業等を今まで以上に巻き込み、益々の学校一体化を進めていく。

・職業実践専門課程の認定、更に高等教育無償化の認定により、情報公開もより適切化されているが、今後も様々な点において情報公開が求められることを想定し、今以上の学校運営に取り組んでいく。

・情報システム化が通常化している昨今の社会背景にあわせ、授業や生徒の情報管理においてもより適切な方法へアップデートし、効率化とともに安全性にも気を遣い体系化に努める。

② 今後の改善方策

・校務の割当や業務フローを見直し、無駄な打合せ等を発生させないよう更なる効率化を進める。

・働き方や考え方が多様化する中で、学校として生徒や社会に発信する内容には特に気を配り、コンプライアンス体制の整備と情報発信の管理を徹底していく。

③ 特記事項

・職員間の Microsoft Teams の運用を推奨し、情報交換の簡略化を図る。

・個人情報が含まれる内容には暗証番号による閲覧管理を徹底

・授業における、chrome book の導入。（Word・Excel・PowerPoint・動画編集等）

・Google フォームを活用したアンケートの実施やスプレッドシートによるリアルタイムの情報共有の活用

④ 学校関係者評価委員会コメント

現場において社員は「LINE ワークス」を活用し情報伝達(シフト管理含む)を行っている。書類の提出が必要な時や POP 作成時などは Excel を使用する頻度は高いため、事前に在学中より Excel 等の使用方法を学ぶ機会が多いと現場でも非常に役に立つと感じている。（西村委員）

現場において、採用時に提出される履歴書は手書きよりも PC で作成したものを持ってくることが多い。受けとる側の印象は変わらないが時代の流れもあるので求められることに順応できるようスキルを身に着けておくべきである。また、スタッフ側として、売上管理は基本的に Excel で行うため、やはり基本的なスキルは身に着けておいた方が

良い。（堀委員）
高校分野では情報の授業があるため、全員 Tablet 持参を必須にしておりExcel 等に触れる機会はある。
学生は呑み込みが早いが、保護者は不慣れな場合も多いので対応する相手によって使い分ける必要がある。
（佐々木委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	4
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題
･更なる教育活動（質）の向上のため、各種研修を充実させる。
･業界の現状を把握し、より学習効果の高い連携、取組みを実施していく。
･長期雇用が見込める教職員の確保（採用強化）。

②今後の改善方策
･新任教員への教育プログラムの体系化
･1年時の施設実習、スイーツカフェクリエイターコースのインターン実習、特別講師の招待など、より時代に合わせた現場のニーズを常に取り入れられる環境を作り、生徒教育に繋げていく。
･飛鳥未来高等学校（本校姉妹校）と連携し、高校生の実情と時代背景を理解し日頃の教務や広報活動に活かす。

・カリキュラムの見直しや、シラバスの改善を業界の意見を踏まえ、常に取り入れていく。
・教員及び教育の質の向上を目的とした研修、講習会の機会を増やしていく。特に実習教員においては時代に合わせたスキルアップの場を取り入れ統一した指導力の担保を強化する。
・卒業生も現場でキャリアを積んできているので、卒業生採用やそのつながりを活かす採用にも注力していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

新任教員への研修は今年度より実施しており、1年目・2年目での目指す姿を設定し、目標達成に向けて具体的な行動を定めている。技術面だけではなく、社会人としての基礎的な能力育成も含めた研修プログラムを実施しており、先輩と一緒に実施する段階から、自発的に動く段階まで育成する内容になっている。（恒川さん）
自身の所属する企業では、入社後はアルバイト業務を覚えて実施することから始まる。その後、正社員としての業務を任せてもらえるようになっている。先輩について学ぶ環境は安心感もありよい環境だと感じる。また、卒業生 LINE の活用方法については、使用の目的や活用例を周知することでより活性化すると思うので、卒業時にしっかりと伝達することが大切だと感じている。学校での学びは技術面だけではなく、学校が大切にしている挨拶や表情、リアクションなど積極的行いコミュニケーションを図った経験が、現在先輩や上司とのよりよい関係構築に役立っていると実感している。（西村委員）
業界の現在の傾向について、コロナ前と変わらない売り上げ水準（8～9 割）に戻ってきている。トレンドにアンテナを張り続け、時代に合ったサービスを提供するために春と秋の展示会には顔を出し、売れている豆の品種や最新機械など積極的に情報を得ている。（堀委員）
教育業界の昨今の傾向という点において、今の高校生の特徴的な部分としては周りの見る目を気にする傾向があると感じる。その影響か、マスク着脱は自由になっているがマスク 6 割着用している状態である。課題としては卒業生との関わりが挙げられる。卒業生と関わるツールとして LINE もあるが、活用が上手くできていない。同窓会の実施で、関係性を持続させる方法を検討している。卒業生にとっても独立支援の機会などよい情報が得られるというメリットを感じてもらう必要がある。（佐々木委員）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・より良い就職支援の確立。(内定後辞退への対策)

・資格試験合格率の更なる向上。

・退学率(目標 3.7%以下に対し 4.6%、昨年度比+0.8%)

・単位不良者数(目標/1 年生 7.0%以下　2 年生 6.5%以下、実績/1 年生 10.2%　2 年生 28.0%)

② 今後の改善方策

・全クラス面談実施＆保護者電話掛けによる関係性構築

・分科会での課題抽出と目標設定、授業アンケート対策施策実施

・全教員の指導レベルの統一(全体会議での授業実践ガイドブック・学生便覧共有)

・資格取得の動機付けを重点的に実施し、上級試験、再受験を含め、チャレンジ意欲も醸成させる。

→資格取得や取得に必要なスキルの現場での活用法を伝える。

・授業内の資格取得対策を強化するとともに、課外のコンテスト対策も更に充実させる。

・退学者に対する分析、対応策をシステム化する。

・卒業生支援として校友会を中心とした活動を積極的かつ戦略的に支援することで全体的な把握に努める。

・一次支援に注力し、専門学校で学ぶ意義と目標設定によるスモールステップで目標喪失による退学を防ぐ。

③ 特記事項

・令和 4 年度退学率　4.6%　※令和 3 年度退学率　3.8%

・令和4年度単位修得率 96%

・令和 4 年度就職内定率　95.9%。 ※令和 3 年度就職内定率　95.3%

・サービス接遇検定/令和 4 年度 88.7%　※令和 3 年度 92.4%

・色彩検定/令和 4 年度 67.9%　※令和 3 年度 65.8%

・ラッピング検定/令和 4 年度 93.3%　※令和 3 年度 87%

・SANKO リンク(卒業生ネットワークサイト)は設置済み。

④ 学校関係者評価委員会コメント

内定辞退は就職活動時点での企業とのミスマッチが起きていると思うので、選考を受ける際には事前に店舗へ足を運び、お店の雰囲気や商品などを深く調べ「お店が好き」な状態で臨むべきである。求人票に記載のある情報や福利厚生なども大切だが、自身のお店に対する想いもとても重要である(堀委員)

自身の入社前後に感じたギャップとしては、大きなものはなかったが、キャリアアップの内容について入社後に知ったことがあったので、HP　や求人票で得る情報に加え、説明会や選考の流れの中で直接質問することで情報をもら

いに行く姿勢も必要である。（西村委員）
教務における退学への対策として、高校分野では教員側の退学率に対する常態化の意識を改善する必要があると感じている。また、上位層教育については高校でも課題感があり、現在は課外活動などを活用している。（佐々木委員）
学校での学びにおいて、技術面はもちろんだがビジネスマナーの授業で学んだことは、職場での人間関係構築において非常に活かされている。また、写真の撮り方などを学んだ SNS マーケティングの授業は、実務において活用される場面が多く時代に沿った授業だと感じている。（西村委員）

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題
・コロナ以降、基本となっているオンラインでの履歴書提出や面接へ順応できるよう、就職支援の強化をしていく。
・卒業生の就業状況の管理の徹底
・中途退学者への支援の検討

② 今後の改善方策
・就職支援を充実させるため、教職員の業界理解の更なる向上と企業への訪問強化
・中途退学者への継続的な状況確認と進路アプローチ。

③ 特記事項
・卒業生向け LINE アカウントにより、卒業後の相談や求人票のやり取りが SNS ツールにて可能。
・令和 4 年度、学内での会社説明会を33回開催。
・複数名の教員による就職支援システムを構築。（ふるさとサポート制度あり）
・経済的な支援として、特待生制度、学費応援制度等あり。
・卒後教育として「製菓衛生師」のセミナー制度も予定している。

④　学校関係者評価委員会コメント

卒業後のサポートにおいて、卒業生としての視点で考えると独立や転職など、環境が変わるタイミングで学校に相談したいと考えると思うので、必要なタイミングで連絡できるツールと環境を整えておくことが大切ではないか。（西村委員）

卒業生から就職の相談をしに来ることは定期的にあり、その際には情報提供をしているので中途募集等の情報提供は需要があると感じる（堀委員）

（6）教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①　課題

・在籍生徒増員に伴い、更なる学習環境の整備、備品の充実に注力していく。

・基本的な防災体制は整っているが、より実践的な訓練を実施。

③　今後の改善方策

・質の高い教育を提供できる環境向上のため、必要物品を充実させていく。

・業界の現状に対応した職業教育を行うべく、教育ツールを企業と連携し開発、整備する。

・より安全を追求し、防災整備、防災訓練を実施する。（ホームルームでの避難訓練）

・当校学校教育や方針を理解してもらえるよう、外部実習だけでなく特別講師による授業や産学連携イベントによる連携など多方面で企業連携を実施していく。

③　特記事項

・例年通り、一定量の備蓄を整備している。

・令和 4 年度より施設実習（インターンシップ）再開

・令和 5 年度より海外研修再開予定

④　学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・教務活動と広報活動の連動を意識した募集を行う。

・本校の教育理念や特徴を理解した志の高い新入生の確保。

・引き続き定員充足による募集停止時の対応。

・18 歳人口減少を見据え、留学生募集への対応を強化

② 今後の改善方策

・在校生等からのリアルな話等を織り交ぜ、今以上に実情に合わせた募集活動を行う。

・将来像（夢、目標等）をイメージさせ、現実とのギャップを生まない募集活動を行う。

・SNS を活用し、募集対象者への効果的な学校認知活動の実施。

・早期対策を強化し、高校 1 年生や中学生への活動も増やしていく。

③ 特記事項

・学納金及び、奨学金制度等の決定に際しては、社会情勢を踏まえた上で決定している。

・一般社団法人愛知県専修学校・各種学校連合会が定めた内容を遵守している。

・姉妹校と連携し、入学生への製菓衛生師通信課程の案内、2 名の入学。

④ 学校関係者評価委員会コメント

高校分野の生徒募集活動において、通信制へは中学校への登校に抵抗を感じる層から希望が出てきやすいため、中学2年生以降を対象にアプローチしている。不登校等の課題があるケースは、保護者へのアプローチを重視している。現在は通信制高校に通う理由も多様化しているため、カリキュラムや通い方に魅力を感じている層には SNS による訴求を積極的に行っている。また、コロナ禍の影響で中学生時代に職業体験を経験していない層が多いため、将来に対する意識が薄い傾向がある。その為専門学校においても早期対策では職業の魅力の訴求を積極的に行うことが求められると感じている（佐々木委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守を徹底して継続していく。

② 今後の改善方策

・引き続き、会議や研修、掲示物等を通じて、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

③ 特記事項

・平成 28 年度自己評価結果より公開を開始している。

・平成 30 年度より「職業実践専門課程」認定校として情報公開を開始している

・令和元年度より「高等教育無償化」認定校として情報公開を上記より追加している

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・社会貢献として一般の方々への公開講座や地域貢献に繋がる取組み（地域活動への参加等）を検討。

・更なるボランティア活動の奨励、支援の強化。（特に福祉施設への活動を強化）

② 今後の改善方策

・新たなボランティア活動先の開拓。

・保育園やこども園との取り組み実施

・イオンモール内店舗様との多岐にわたる企業連携行事の企画

③ 特記事項

・平成 29 年度より営業許可を取り、学内店舗実習を展開している。（1階店舗実習室にて）

・平成 29 年度より児童養護施設支援、高等学校への技術支援等を強化している。

・令和 3 年度より、イオンモール様と連携を図り、クリスマスイベントを開催

・令和 4 年度より、名古屋こども保育園との連携を開始。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和 4 年度の振り返りを具体的施策と共に確認でき、改めて前年度に比べて進化していると感じる。

また、前年度課題だった点を重点的に対策しているところが見られ、学校運営を単年で考えず長期的に向上させていく姿勢が感じられる。結果としてその継続的な課題の抽出と対策が業界全体の底上げにも繋がると思うので、今後も高校分野、在校生、卒業生、業界と様々な角度の意見を積極的に取り入れ良い人材の輩出に繋げて頂きたい。冒頭で説明があった学園ビジョンである「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」ことを目指す為には、学校内部の教育活動はもちろんだが地域との連携や企業からの情報収集、当事者である在学生や卒業生の言葉も必要であると考える為、今後も今回のような機会を大切に教育活動に活かして頂きたい。時代に沿ったより良い教育活動の運営を期待している。